

社会科における学習過程の分析

織田長繁・中尾正三・都築 亨・高森 充

地理学習過程の比較

高 森 充

1. はじめに

一昨年来、私達は「社会科学習上の困難点の究明」を出発点として社会の構造的発展的認識のための指導方法と内容について検討してきた。

その1つの成果は「課題解決学習」(B方式)の適用であった。それは所謂「系統学習」(A方式)に比べて次の諸点ですぐれていた。①知識、理解の面ではA方式の場合と大差なく、②事実を通じた洞察力、思考の面でB方式がかなりすぐれており、③知識を習得してゆくプロセスが重視されており、特に学習活動における能動性(課題解決学習のもつ主観主義でなく、客観のもつ動向にそった)学習への主体的取り組みが認められた。

しかしながらその反面、既に指摘されたことであるが1年間の授業の反省の中からも、次のような問題点が考えられる。

①、B方式の場合、生徒のホームワーク、レポートの提出という条件が大きいウェイトをしめること。
②、導入段階(課題の構成と問題の枠づけ、学習全体の方向づけ)にかなり大きな時間的比重がかかる。
③、学習活動において生徒の主体的能動的取り組みを重視するため、内容の消化に時間を要し、A方式にくらべて時間的ロスが起り易い。
④、リアルな思考とか事実を通じた洞察力といった問題はB方式の核心でもあるが、「言うは易く行うは難し」で問題意識の過剰、性急な「態度」への教育へという陥し穴にはまる危険

がある。

従ってここでは以上の問題点をさらに検討するために、ホームワーク、レポート、使用プリント、配当時間等について、A・B方式共になるべく均等の条件下で2つの学習過程の比較を試みたい。

2. 研究のねらいと方法

中学1年の地理について、年間総時数の3分の1の比重をしめる地誌の中から、特に外国地誌の1地方を取り上げた。(昨年は日本地誌の中から特に中央高地地方を取り上げた)

(ねらい) — A及びB方式の対比において、

④、アフリカ地誌の指導案の違い→指導のねらいの違い。学習過程の違い。

⑤、その結果、学習成果にどんな違いがあるか。

⑥、B方式の問題点の検討

(方法)

単元、アフリカ

対象、中家1年(A組44人、B組45人)

期間、A組(系統学習=A方式) B組(課題解決学習=B方式)として、11月26日~12月3日(5時間ずつ)

授業者、高森 充

学級編成については名古屋市内の入学志願者2837名から完全抽選による採用者をA・B両組に機械的に配分して編成されている。ただし平常の学級のムードはB組がやや活潑である。

3. 授業の指導案と学習過程

A 案

ア フ リ カ

(5時間)

過 程	学 習 過 程	学習指導の観点と指導法	備 考
○ 導 入	○アフリカについての最近の出来事 ○写真、地図などをもとにアフリカの特色を話し合う	○新聞記事等からアフリカの最近の出来事を話す ○アフリカについての印象、感想を出させる	新聞の記事、世界文化地理大系の写真地図
	1. 自然と住民 (1) 位 置 37°20' N~35° S		宿題「白地図にアフリカの地形、気

社会科における学習過程の分析

○ 展 開	大きさ 3,031万Km ² 人口 2億1,000万 (2) 地形 ○台地状大陸(平均660m) ○南北端に山脈 ○地溝帯 砂漠 ○東部の高山 ○河川 (3) 気候 主な気候地域 (4) 住民 2. 北アフリカの国々 (1) エジプト(アラブ連合) ○ナイル川三角州の農業 ○ステップの開発 (2) バルバリ地方 アルジェリア } 地中海式農業 チュニジア } モロッコ } サハラ油田 3. サハラから南の国々 (1) ギニア地方とガーナ (2) コンゴ (3) 東部高原の国々 ケニア, エチオピア (4) 南アフリカ共和国	○宿題の課題からアフリカの地形の特色を発表させながら板書→整理 ○アラブ人, ヨーロッパ人, 黒人の居住地域等に注意 ○エジプト革命とスエズ運河 ○新しい動きに注意 ○アルジェリアの独立戦争にふれる	候区等を記入して くる。」 白地図「アフリカの植民地と独立国」 プリント “アフリカの独立の斗い” 宿題 白地図「アフリカの資源と産業」
	○ 終 結	○アフリカの特色をまとめる	→宿題を発表させながらまとめる

B 案 ア フ リ カ (5時間)

過 程	学 習 過 程	学習指導の観点と指導法	備 考
○ 導 入	○アフリカに住む人たちはどんな生活をしているだろうか ㊦ きびしい自然 ㊧ よい場所→ヨーロッパ人の侵入 ㊨ 侵入してきたヨーロッパ ㊩ 相次ぐ独立の動き	○アフリカについて知っていることを素直に出させながら問題をまとめる ○学習の方向づけ (アフリカの生んだプロセスで枠づけ)	プリントした白地図 (宿題) ↓
○ 展 開	1. アフリカの人々の生活の舞台 アフリカの自然と産業—特産物と豊かな資源 2. 植民地大陸アフリカの歴史 古い文明 近世ヨーロッパの侵略 奴隷貿易 19c アフリカの分割 ふえなかった人口—ゆがめられた社会 ○アラブの怒りと黒い爆発 3. アラブの国々—北アフリカエジプトと	○白地図(自然と産業)の課題について発表させながら自然の特色をまとめる ○豊かな資源古い文明をもちながらなぜアフリカは貧しいか—貧しさの原因を考えさせる ○主な原因を植民地の問題として考えさせる ○アラブ民族主義と黒人アフリカの民族主義を統一的にとらえさせる(プリント資料←→アフリカ人民会議の説明について意見	㊦自然 ㊧産業 ㊨植民地と独立 プリント “アフリカの独立の斗い” 地図帳資料(大陸

	アルジェリア (エジプト革命とアルジェリア戦争) 新しい産業と開発 4. 黒いアフリカ 西部の新興国ガーナとコンゴ 東部の新興国ケニアとタンガニーカ 人種差別の激しい南部 南アフリカ共和国	を発表させる) ○スエズ運河問題 ○特に乾燥地の開発にどんな手を うっているか ○プランテーションの移り変わり ○黒人アフリカ独立運動の中心 →ガーナを重点的に ○イギリスの政策との関係に注意	別人口増加率) ○アスワンハイダ ムの写真
○発展	○今後アフリカはどう進むであろうか	国連におけるアフリカ諸国の動き	(宿題)

まず系統学習(A方式)については教科書の内容及び配列(教材)にかなり忠実に従っているが、一応次のようなものを系統として考えた。即ち、アフリカのもつ地域的特色を理解させることを中心的目標として、

アフリカの自然環境→その自然を舞台として生活する人々→それぞれの民族と国々の動き→全体としてのアフリカとしてまとめる。

授業の形態としては所謂一斉講義学習であり教科書中心であるが、プリント資料、ホームワーク等はB案の場合と同一条件、同一の問題で課した。プリントの学習資料はエジプト革命、アルジェリア戦争、ケニアの問題、全アフリカ会議等を要約(雑誌、新聞、参考図書から)したものを教師の方で編集した。宿題は教師のプリントしたアフリカの白地図に3つの問題を授業進行に併行して課したもので、①アフリカの自然地域の名称——山地、高原、砂漠、河川、湖等の記入と、気候区について、—そこからアフリカの自然の特色をまとめさせている。②、地下資源と特産物—特にプランテーションにどんなものがあるかを調べさせてくる。③、アフリカの未独立国や地域を地図に表わす。これらはA・Bそれぞれ指導案に示した形でほぼ忠実に利用した。

次にB案についてはA案にくらべて、導入と内容配列の上はかなり大きな差異をもたせてある。即ち、全体の目標としては第二次大戦後の急激な民族運動のたかまりを中心に、内に多くの矛盾をもちながらも「全体としてアフリカのまとまり」に注目させながら、発展し、動きつつあるアフリカを生々しく把えさせることに努めた。しかしそれは単なる時事的問題のトピックス的な取り上げ方ではなく、指導案に示したように次のような諸点に留意した。

先づ導入段階においては、「アフリカに住む人々はどんな生活をしているか」という観点から、アフリカについて知っている様々な知識、関心—そこには誤った観念や歪められた雑多な知識、浅薄な関心等が入り

まじっているが—それを次の様な形で整理する。例えば生徒から出てくる問題の中には「アフリカは砂漠の多い所である」「黒人がいる」「ケニアにはめずらしい動物がいる」「スエズ運河がある」「植民地が多い」「文化が遅れている」……といった事柄から、地名、物産等のあれこれ何のつながりもなく断片的に出てくる。中にはアフリカ=熱帯とサバクの国=黒人の国=人種差別の国=内乱の多い国といった誤った図式を組み立て勝ちである。このような概念をうちくだし、誤った観念、歪められた理解を是正してゆく方法は勿論、系統学習の中でも可能である。しかし問題の誤りを主体的に目覚し、特色ある地域としてのアフリカとしてだけでなく、構造的な=複雑な構成要素をもった地域であるが、何がその中で基本的に重要な問題であり、何がアフリカの中心的な課題であるかをアフリカの史的プロセスにてらした客観の道すじの中で把えさせなければならない。このような視点に立てば、決定的に重要なことは導入における「学習の枠づけと方向づけ」である。勿論この学習の方向づけは、中学1年生という年齢段階とレディネスに照応する比較的単純化された課題として設定されなければならない。しかし、その課題は決して生徒の恣意的、主観的な興味や関心で決定されるのではなく、生徒の興味や関心を単純なものから複雑なものへ、易しいものから難かしいものへの学習軌道にのせる手段として組み入れながら行われる。

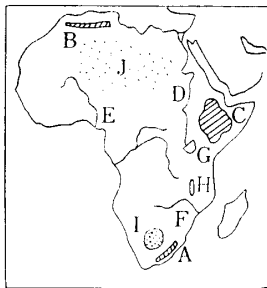
ここでは指導案にその大綱を示したように、アフリカの歩んだ道→アフリカの歴史的発展のプロセスに従うように努めた。きびしい自然→熱帯とサバクも多いが、肥沃な土地も多い。→豊かな資源、古い文明→にも拘らずなぜアフリカは貧しいといわれるか、その貧しさの実体と原因は何か、→アフリカはどうなってきたか、→どうなってゆくかという課題が学習の中心テーマにすえられる。

以後の学習の展開はこのような地域の課題が、どの程度まで果され、残された問題は何かという形に発展

させる。従ってA案に示されたような単元の終結として「アフリカ」の特色をまとめる、といった形態ではなくて、必ず残された問題が確認され、これらは他地域の学習の場合にも出てくる問題と共に、全体としての世界の単元で再び取り上げられる。従ってかつての問題解決学習に見られる安易な解決を極力避けることに努めた。

4. テストと結果の分析

テスト ○アフリカについて



1. 左の地図をみて、アフリカの自然地形についてその名前を記入しなさい。

2. 左の地図を見て次の間に答えなさい。

①～⑤の地域にあたる国名を次の〔A群〕の(イ)～(オ)から選んでその記号を書き入れなさい。また、それぞれの国の特色について述べてあるのを下の〔B群〕から選んでその記号を書き入れ

なさい。

〔A 群〕

(イ) エチオピア (ロ) 南アフリカ共和国 (ハ) コンゴ
(ニ) ガーナ (ホ) アラブ連合共和国

〔B 群〕

- (a) 1957年独立した黒人の国で、カカオのプランテーションが非常に盛んである。
(b) もとベルギーの植民地で1960年に独立したが国内に対立があり分裂している。密林の地域が広いがウランなどの地下資源が豊かである。
(c) 高原上の古い黒人の独立国で、コーヒーの原産地として知られている。
(d) 乾燥地であるが、大きい川をせきとめて灌漑をし、農地を広げて綿などの農作物を作っている。
(e) 初めオランダ人、のちにイギリス人などの白人が多く移住し、農業、牧畜、鉱業などが盛んでらる。

3. 2の地図を見て次のそれぞれの間に答えなさい。

- (1) 地図中のBの海を何といますか。
(2) Aの海岸はギニア海岸と呼ばれているが、この付近の海岸はこの外にいろいろな地名がついている。どんな地名があるか、歴史上関係のある海岸地名を3つあげなさい。

(3) このような海岸地名がついたのは歴史上のどんなことと関係があるか、簡単に説明しなさい。

(4) 地図中の①と③の間にある運河を何といますか。

(5) この運河は今から何年くらい前にできましたか。○印をつけなさい。

50年前, 70年前, 90年前, 110年前

(6) 運河をもつ国(もち主)がどう変わったかを簡単に説明しなさい。

4. 次の文を読み、これを参考にして、それぞれの間に答えなさい。

「ガーナのエンクルーマ首相は、1958年12月8日、全アフリカ会議を開会した。

これから1週間、アフリカ各植民地の独立達成の手段を考えるわけで、このような会議がアフリカで開かれるのはこれが最初である。会場に通じる道路にはアフリカの独立国9つの旗がひらめき、会場入口には、「全アフリカ共和国万才」のプラカードがかかけられ、会場内には大きなアフリカの地図の上に、

「アフリカの人々は団結する」と書かれていた」

(1) 「アフリカの人々は団結する」とありますが、何のために団結するのでしょうか、会議の目的と合せて、できるだけ詳しく説明しなさい。

(2) このような会議がひらかれるについては、アフリカは長い間ヨーロッパにとってどんな役割をしてきましたか。できるだけ詳しく説明しなさい。

(3) 現在、アフリカが世界から注目されるようになったのはなぜでしょうか。いろいろな面からできるだけ詳しく説明しなさい。

(4) あなたがもし、アフリカの植民地に農園をもつヨーロッパ人であったら、このような会議をどう思いますか。自由に意見を書きなさい。

(5) あなたがもし、ガーナの国民であったら、どういう態度をとると思いますか。自由に意見を書きなさい。

以上の問題を学習1週間後、両組一斉にテストした。(テスト所要時間70分) 問題のねらいとしては、1が要素的知識、2及び3が知識、理解、4の(1)～(3)が全体的発展的理解の程度、4の(4)(5)は一定の状況(仮想された状況)に対する反応をしらべてみた。

結果の分析

(イ) 要素的知識について

1. アフリカの自然地域の名称

クラス	点10/10	9	8	7	6	5	4	3	2	計	平均
A	10	11	5	5	6	2	3	1	1	44	7.88
B	8	12	10	3	3	5	2	2		45	7.68

(注) 問題数10, 10満点の得点分布

両組ほとんど差は認められないが、平均点でA組がわずかによい。満点はA組にやや多いが、8点以上の準正解者はB組にやや多くなっている。

しかし誤答の内容を比較すると次の表の様になる。

A (44人) B (45人)

問	答	誤答数	%	誤答数	%
A	ドラケンスバーグ山脈	16	36.4	12	26.6
B	アトラス山脈	7	15.9	4	8.8
C	アビシニア高原	12	27.3	8	17.7
D	ナイール川	2	4.5	0	0
E	ニジェール川	2	4.5	10	22.2
F	ザンベジ川	11	25.0	20	44.4
G	ヴィクトリア湖	6	13.6	9	20.0
H	ニアサ湖	20	45.4	32	71.1
I	カサハリ砂漠	19	43.2	9	20.0
J	サハラ砂漠	4	9.1	0	0

A組では誤答率50%をこえた項目はないが、ニアサ湖(H)、カラハリ砂漠(I)、ドラケンスバーグ山脈(A)の誤答率が45%~36%でやや高くなっている。これに対して、

B組ではニアサ湖の誤答率が特に高く71%、続いてザンベジ川の44%がかなり高いが、あとの項目は30%以下であり、特にナイール川とサハラ砂漠については誤答なしである。従って、B案では重要な頻出地名は確実に憶えているが、特殊な地名等の記憶が弱いということは言えよう。

(ロ) 知識理解

ここでは問題2. がアフリカの主な国々の特色を地図と結びつけて理解しているか、問題3. が場所と歴史的事項の結びつきを問うたものである。結果は次の通りである。

2. 国の特色

クラス	点10/10	9	8	7	計	平均
A	41	1	0	2	44	9.84
B	41	1	2	1	45	9.82

3. 場所と歴史的事項

クラス	点10/10	9	8	7	6	5	4	計	平均
A	12	19	9	1	0	2	1	44	8.72
B	14	19	10	1	0	1		45	8.95

2. については両組とも非常によい成績で満点が共に41人ずつある。AB両方式の違いによる成績の有意差はない。

3. についてもほとんどその差を認められないが、問題1の場合とは逆に、満点がB組にやや多く、平均点もわずかながらB組がよくなっている。

(イ) 全体的発展的理解

ここでは、「全アフリカ会議」の状況を示す文を読んで、問題の背景、全体的把握、構造的な理解の程度を求めてみた。ただ問題そのものが、政治的な内容で、中学1年生に対してやや難かしい。従って公式的、形式的な解答も目立っていた。

4の(1), 会議の目的

		A組	B組
◎	よくまとまっている	9	16
○	大体よい	18	22
△	不十分(形式的)	13	7
×	無記及びナンセンス	4	0

両組とも、かなり正しく把握している。しかし「できるだけくわしく説明しなさい」といい要求に対して、A組は戸まどいが多く、単に「独立のため」といった本文の言葉を置き換えただけの例が多い。さらにA組に無記が4名あることが注目される。

4の(2), 過去のアフリカの地位、役割

組	A	B
◎	2	8
○	15	23
△	22	14
×	5	0

分類の基準は(1)の場合とはほぼ同じであるが、◎印は全体としてよくまとまっており、特に歴史的把握、構造的な理解(複雑な問題を体系的にこなしている)にすぐれている。

例えば次のような解答例「アフリカは長い間ヨーロッパの植民地であり、鉱産物、特産物などをヨーロッパ人にもって行かれた。又よい土地などもとられ、プランテーションの農場で働かされた。19世紀末頃から、ヨーロッパで産業革命が終ると、アフリカは全くヨーロッパの市場になり、植民地に分割された。

そのため教育や文化の発達がおくれ、ヨーロッパからは暗黒大陸などと呼ばれて来た。それだけに現在は

げしい独立運動が起ってきている。」(Bの女)

これに対して△印の不完全な例では、ただ「植民地大陸であった」といった一行程度の説明で、形式的な把握である。この様な△及び×(無記, ナンセンス)の例はA組にかなり多い。しかしBの場合、歴史的背景についての指導にかなり力点を置いたにも拘らず△が14名あることは注目される。

4の(3), 世界におけるアフリカの役割

組	A	B
◎	1	6
○	18	28
△	21	11
×	4	0

分類の観点(1), (2)の場合とほぼ同じ。

指導案にみられるように、指導内容、特に終結段階における指導の違いが、かなり明らかに現われている。

特にAの場合、産業や資源の面からの説明が多いのに対して、Bの場合は、それに合せて、政治的側面—国際政治、国際関係における役割について説明している側が多い。しかし、教科書には(2), (3)に類似の問題がのせてあり、教科書の内容もこれらにふれているから、A組の場合も○印のランクの例ではかなりまとまった説明をしている。ただその場合、Aに比べてBの方が独立後の問題点等にもふれて、かなり多面的な捉え方が認められる。

◎の場合、特に問題点のとらえ方はかなりすぐれている。例えば

「……………独立した国は経済、文化などの点に力を入れると思うし、ますます発展していくだろう。しかしアフリカの理想としているアフリカを1つにまとめるということは大変にむずかしいと思う、それはアフリカの中でも、国によって宗教のちがいもあるし、それに外国の勢力との関係や、国内での対立などものこっている。コンゴなどはその例である……………」

(B組の男)

(二) 極端なProblem situationに対する反応

ここではかなり極端な形で「一定の状況下に置かれたと仮定」して、それに対する意見をきいてみた。

4の(4)

組	A	B
E	24	23
I	12	18
?	3	2
N	5	2

現実離れの設問であるから、この比較はかなり無理があり、カテゴリー自体に問題があるが、一応次のように類型を分けた。

E, 感情的反応(会議に対する否定的意見が多いが、肯

定的意見であっても、一面的、表面的な見解)

I, 理性的反応(否定, 肯定いずれの場合も、根拠を示して意見をのべる)

?, わからない。

N, 無記

A, B両組とも、E型が最も多く、「にくらしいから反対する。」「会議をおちこわしてやりたい」といった例が多い。これに対して、I型では、B組がやや多く、例としては「時代のながれからみて、やむをえない。現住民等の暮らしがよくなるのだったら会議にさんせいする。しかし独立をしてもこん乱や争いが起るのであれば、十分な話し合いが必要だ」(B組の男)

4の(5)については、両組ともほとんど会議に対する肯定的態度を示し、「わからない」や無記がA・B両組に1名ずつあった。しかしこの結果は当然とも言えるし、肯定的意見が多いからよいということも言えない。むしろA・B両組とも形式的、公式的意見が多い。

所で、(4), (5)のような「一定の状況」に対する意見や、かまえを求めることは、その状況が非現実的な、極端に仮想されたものであるだけに、生徒の反応も混乱することは避けられない。この点は学習指導の実際に当たって十分留意すべきことがらであることを示していると言える。

5. おわりに

前回の比較研究(紀要第7集)にくらべて、ここではA・B両方式をなるべく均等の学習条件(宿題、使用プリント、時間配当)の下で、2つの学習過程の比較を試みた。従って、前回の場合のようにきわだった差異(特に思考態度について)を認めることは出来ないが、①、知識、理解の面では両案ともその成績にほとんど差異のないこと。②、構造的理解(複雑な問題をかなりよくこなしている)の面で、B案がややすぐれているように思われる。③、知識を獲得してゆくプロセスの面ではB案の方がやはり主体的取り組みが認められ、学習活動は生き生きとしてくる。

しかしながら、リアルな思考とか、事実を通した洞察力といった問題は、教材の内容にも関係して、やはりかなり難しい問題であり、簡単には結論出来ないと考えられる。特に課題解決学習の課題のとらえ方、教材の選択、内容の組み方、特に内容そのものの妥当性、科学性、体系といった問題は今後さらに検討されなければならない。地理の場合、複雑な構成要素をもつ地誌を動的に取り上げる上でB案の有効性はかなり明らかであるが、それだけに又地域課題—地誌の中心の問題は何かを決定する客観的筋道を立てることは難しくなる。若し、性急な問題意識が先行するならば、徒らな飛躍をまねくであろう。

その意味で、日本、及び世界の地誌についての内容的な検討と、地味な実践の積み上げが必要である。